

2015 年 8 月 16 日「愛による一致」

＜ 聖書箇所 ＞「エペソ人への手紙 4 章 14 節～16 節」

こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである

＜ 説教抜粋 ＞「愛による一致」

今日の説教の題名は、「愛による一致」です。この箇所には、愛を中心とした一致に関する話が説かれています。それでは、パウロはなぜ、「愛による一致」を強調しなければならなかったのでしょうか。

その理由の一つは、当時の信徒たちが、なかなか一致しづらい現実に直面していたというところにあると思われます。「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」。

つまり、いろいろな人がいろいろな事を主張していたのです。実は、キリスト教の歴史は、分派との闘争の歴史でもありました。何が正統で何が異端であるのかという命題は、イエス様の存命中にも議論されたようです。そして、イエス様の亡き後、その闘争は激化することになります。

たとえどんなに素晴らしくみえる言葉を話していたとしても、その真実があるのかは別の問題です。私たちが何よりも関心を持つべきことの一つは、私たち自身が愛の実体になっているかではないでしょうか。たとえ言葉が拙かったとしても、真の愛で真摯に愛する姿には、誰も頭を垂れるのです。

愛は観念に留まるものではありません。そこにどれほどの価値を置いて生きているかが問題なのではないでしょうか。「また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。」。

たとえ互いの個性が異なっていたとしても、一致点を見出そうとする努力を惜しんではなりません。考え方の多少の違いは、こうした努力で乗り越えることができるのです。むしろ、より多く愛するための競走をしようではありませんか。